

日露戦役従軍日誌にみる戦闘の様相

元新発田駐屯地援護室 佐藤 和敏

【第二回】は九連城占領の後、追撃に移り鳳凰城を抜くまでの状況です。

五月六日晴天、朝三時警急集合し、終りて鳳凰城に向って敵を攻撃する目的をもって前進するとつたえしも敵は先日の戦に恐れて退却せり。午後十一時、光東門に着し見れば立姿掩体に等しき。昨日まで防御せし町の西北方約千メートルの麓に敵の騎兵斥候を見たり、午前四時、老扇廊に着き宿泊す。

七日晴天、滞在、各分隊より一名宛鳳凰山より北方約四千メートルの麓にある鳳凰城に面して砲兵陣地の防御工事をす。午後五時三十分解散す。

八日晴天、滞在す。午前八時四十分より鳳凰山派にそびえたり西北方に面して掩壘工築するため出発す。午後五時解散す。

九日晴天、滞在、午後五時より当中隊の曹長 若月倉蔵、命令により特務曹長に任官す祝いとして中隊本部前の畑地において酒会す。

十日晴天、朝七時十分の整列にして同八時四十分聯隊の集合終りて鳳凰城に向って前進す。同十時四十分、同城に着きし見れば、戸数三・四千戸にして城壘高くして、石門あると伝えしも、城内は乱れて皆敵家となり同時二十分、町より二千メートル北方小原において昼食す。同五十分より警戒しつつ鳳凰城より約三里行軍す。数千丈の山の絶頂において防御工事を成し、全く六時三十分工事終り第九中隊は前哨とす。敵方を警戒す。第三小隊第三分隊独立下士哨、残兵は山の絶頂に位置す。午後八時頃、我が前哨線より約二・三里前方の山の麓において敵の露营地に、所々に火光を見えたり。

十一日曇天、朝五時頃より敵方面に一斉射撃を開く、第十二中隊は全部斥候となり昨夜より敵を探す。我が下士哨は午前九時頃命により昨日掩壘を築きし地を引き上げ、同時我が十二中隊は敵の騎兵五百騎に当たり、敵の騎兵中尉一名、兵卒十七名、馬七頭捕虜したり。同三十分敵の騎兵中尉担架に上げて来たり、第三大隊付き軍医、之を診察す。午後五時、不明村落に一泊す。戦闘地は雪里点とす

十二日、朝九時までに中隊本部前に集合す。第三大隊本部に向って前進す。大隊本部西端において休憩す。同日朝出発の際、病気又は戦傷のため欠けたるに付き、各中隊に補充隊分配さる。各分隊に配置さる。午後三時、四台子高家堡に宿泊す。午後十時命令報告に

接す。一昨日敵のコサック、安州を襲う、守備隊は是を撃退す。敵の死傷者五騎、我が軍は死傷三名。英米国将校延服にて来り居るにより、若し将校と思わば兵格に敬礼をすべし。明日は午後四時、前面の畑地に集合すべし。皇后陛下、皇太子殿下の慰問を奉読す。

以上、九連城から鳳凰城追撃占領までの日誌でした。